

現場・市民 目線で市政チェック。 「いいね！」あふれる大和に。

令和3年夏号

vol.026

5月臨時会
6月定例会の報告

おだひろし 大和市議会議員 元産経新聞記者

小田博士の 市政かわら版



パワハラ疑惑の報道相次ぐ 議会に調査委 市長は提訴

大和市の金子勝副市長（当時）が3月下旬、突然辞表を提出し、市は5月7日の臨時会に後任の人事案を提出しました。

同日付の神奈川新聞が「金子氏の副市長辞任は大木哲市長のパワハラ的な言動をやめさせることができなかつたことが原因だった」と報道。私は本会議で金子氏辞職の経緯を質しました。



大木市長は登壇せず、総務部長が「市長就任以降の14年間、報道内容に該当するような相談はない」と疑惑を否定しました。

市議会は6月、調査特別委員会を設置しました。一方、市長は金子氏を相手取って名誉毀損の損害賠償を求める訴訟を起こしました。大変異例の事態となっています。
=裏面に続く

Q&A

一般質問(2021.6.22)から

【風通しのよい職場環境】

Q. 市の相談窓口で受け付けたパワハラの相談件数は？

A. 平成30年度から昨年度までの3年間の相談件数は、パワハラとして認定されたケースも含め21件だ。

Q. 精神疾患を理由とした休職者が増加しているが？

A. 全国的に増加している。本市でも平成21年から職員リハビリの期間を最長3カ月まで延ばし、再発予防に重点を置いた復職支援に見直しをしたことによるものと捉えている。

Q. 自己都合退職者数も増加傾向にある。他自治体より多いが？

A. 令和元年度の自己都合退職者数は33人だが、任期付職員の退職11人を含む。職員の定着率向上の取り組みは必要であり、引き続き研究したい。

【カラス対策】

Q. ネットやカゴの補助制度など対策を講じられないか？

A. 苦情は月数件程度あり、必要に応じて文書を配布し、対応をお願いしている。補助制度は難しいと考えており、パンフレットなどにより対策の周知に努めたい。

【資源選別所の環境整備】

Q. 環境整備をどう進めるか？

A. 施設等の老朽化は承知しており、受託事業者との意見交換等を踏まえ、良好な作業環境を確保できるよう最良の方法を検討したい。

【コーチング】

Q. 民間団体と連携してコーチングを普及啓発できないか？

A. コーチングは教師のコミュニケーションスキルとして重要である。民間団体の活動をはじめ、子供に寄り添い支援していく場や機会について情報提供していく。

風通しのよい職場環境を

[表面から続く]

パワハラ疑惑の真相究明は、議会の調査特別委員会や民事訴訟に委ねられます。私は人数枠の関係から調査特別委員になれませんでした。よって、6月定例会の一般質問では市役所におけるパワハラやメンタルヘルスの問題を取り上げました。

質問の概要は表面に記しましたが、市の人財課窓口が受け付けたパワハラに関する相談は、昨年度までの3年間において計21件あったことが明らかになりました。市長に対するパワハラの申し出はないということなので、これらは別件となります。

パワハラは一般的に、誰にも相談しない泣き寝入りのケースも多く、表面化する事例は氷山の一角とされます。実際はもっと多いのではないかと考えられます。

パワハラは被害者の受けとめ方による側面もあります。業務指導との線引きは難しいですが、職員が自由に発言できる風通しのよい職場環境を構築していくためには、撲滅していくことが重要です。

報道によると、ある職員は「市長室に呼ばれたが、涙を流し体が震えて入室できない状態になった」といい、金子氏以外の退職者からの証言も出ています。市長は苦境に立たされています。

当事者の主張

金子勝前副市長

- ・「職員を理不尽な理由で叱ったり、机をたたいて怒鳴ったりしていた。複数の職員から相談があった」(朝日新聞)
- ・「連日市長室に呼ばれ、叱責された管理職が精神的な不調を訴えて出勤できなくなったという報告も受けた」
- ・「部長以上の幹部職員が集まった会議で、『私の言うことを聞かなければ課長とチェンジする』と降格を示唆する発言が出た」(いずれもNHK)
- ・「やめるよう何度も進言したが改める様子はなく、苦しむ職員を見るのが耐えられなくなった」(神奈川新聞)

大木哲市長

- ・「パワハラは捏造。前副市長は虚偽の情報をマスコミに流した」(発表したコメント文)
- ・「被害者からの直接の被害の申し出や訴えが一切存在していない」
- ・「金子氏の意図は別のところであり、私に対して政治的な攻撃、すなわち社会的なイメージダウンを狙ったのではないが」
- ・「(金子氏から)進言も一切なかったが、辞職してからパワハラが原因だと言い始めた」(いずれもタウンニュース上の意見広告)

パワハラ疑惑 主な経過

5月7日	・地元紙の神奈川新聞が「市長パワハラで辞職」前副市長が証言と報道 ・市議会では調査する方向性で合意 ・市側は市議会本会議で疑惑否定
18日	・市議会議運委が調査特別委員会の設置を決定 ・市長はコメント文で、前副市長を提訴する方針を表明
20日	市職員組合がパワハラの有無を調べるアンケートの実施方針表明
26日	・神奈川新聞やNHKが「1期目の副市長『自分も被害を受けた』」と報道 ・大木市長が定例記者会見で疑惑を再否定。打ち切りで会見紛糾(その後再開)
6月1日	市議会が本会議で調査特別委設置案を可決。市側の調査協力を求めて決議
9日	市議会調査特別委が初会合。調査方法を協議
10日	市長が前副市長を相手取り、名誉毀損に伴う損害賠償と謝罪広告掲載を求めて横浜地裁に提訴
18日	市長が地域情報紙タウンニュースに意見広告。「パワハラ主張は虚偽」と強調



コロナに負けず視察政策提言に反映

市議会の環境建設常任委員会は2月、ゴミ資源選別などの事業を委託されている大和市リサイクル事業協同組合とオンラインで意見交換し、「労働環境が厳しい」との切

実な声を伺いました。新型コロナウイルスの自粛措置が緩和された4月には、委員有志で市内の資源選別所を視察し、「環境改善が必要」との問題意識を共有しました。

委員会として行政側に要望書を提出できるとよいのですが、大和市議会では現在ではできないとい



うことです。なので6月議会の一般質問では、当時の副委員長と連携して委員会を代表する形で、

資源選別所の環境整備を要望。市側から「最良の方法を検討したい」との答弁を引き出しました。コロナ下でしたが、委員長として一定の職責を果たせたと自負します。

令和3年度は厚生常任委員会と広報委員会に所属します。一兵卒として頑張ります。

◆プロフィール

大和市議会議員(2期目)

昭和50年1月生まれ

大和市出身/福田在住

西鶴間小学校、南林間中学校

中央大学附属高校、上智大学経済学部卒

早稲田大学大学院政治学研究科修了

(公共経営修士、専門職)

◆産経新聞記者(16年間)当時の職歴

整理部→千葉総局→社会部→政治部

◆資格・特技 防災士、居合道3段

【9月議会】

大和市議会の令和3年9月第3回定例会は8月30日から9月27日まで29日間の日程で開催される予定です。一般質問は9月16、17、21日です。どなたでも傍聴できます。気軽にお越し下さい。

◆市議としての役職(令和3年5月～)

厚生常任委員会委員

広報委員会委員

交通安全対策協議会委員、社会福祉審議会委員

◆その他の主な活動

自民党大和市連合支部

政調会長、広報局長

自民党神奈川県連

市町村議員協議会幹事

大和中央シティライオンズクラブ

隊友会、金毘羅神社神輿会

HPIはこちらから↓



大和市議 小田博士 〒242-0024 大和市福田5690-1-601

小田博士 検索

(TEL) 046-206-5567 (FAX) 046-206-4288 (MAIL) h-oda@nifty.com

このレポートは政務活動費を使用していません。

